



特集Ⅰ

歴史を今に「つなぐ」
遺跡の上の熊本大学

特集Ⅱ

熊本大学学生広報スタッフがインタビュー！
くまモン誕生から女性の働き方まで！
宮尾千加子理事に聞きました！



(左) 化学実験場 (中) ドラフトチャンバー (右) 物理実験場階段教室の授業風景

化学実験場とドラフトチャンバー

1889(明治 22)年に建設された第五高等学校の化学実験場は、当時の最新技術を取り入れたドラフトチャンバーと階段教室が特徴的な建物である。

階段教室は、教卓で行われる化学実験が見やすいよう、6列設けられた生徒の座席が階段状に、また両翼は僅かに内側向きに配置されている。

ドラフトチャンバーは、化学実験によって発生する有毒な気体を建物外へ排気する装置であり、実験台をガラス窓で覆い、煙突に直結した排気口が設けられている。この化学実験場に設置されたドラフトチャンバーは、ランプの燃焼による上昇気流を利用して排気を促すという仕組みを採用しており、機能的に充分とは言えないまでも、当時としては最新のシステムであった。

第五高等学校には、この化学実験場と対をなすように、同様の規模を持った物理実験場という建物も設置されていた。旧制高等学校の物理、化学実験場は近代高等教育における理化学系教育への期待を物語るものである。

第五高等学校の化学実験場はドラフトチャンバーと共に2014(平成 26)年に日本化学会の「化学遺産」に認定された。

文 藤本秀子 (五高記念館)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。



未来へつなぐ。 — 熊本大学と SDGs —



©2010熊本県くまモン



薬学部を中心に推進している「有用植物 × 創薬システムインテグレーション拠点推進事業 (UpRod)」。熊本大学に蓄積されている「有用植物ライブラリー」を基に、薬用植物の成分分析や医薬品の創出につなげる研究を行っています。さらに、世界各地の薬用天然物資源の保全と薬用植物に関する人材育成を行い、世界の人々の健康と幸福を目指す壮大な構想です。

この中で、三隅将吾教授が担っているのは、天然物の有効性にエビデンスを得るための評価システムの構築。熊本大学のスーダンオフィスなどとも連携し、3大感染症の1つであるエイズや、新型コロナウイルス感染症に有効な薬用植物成分の評価分析を行い、SDGsのゴールに向け世界の人々の健康を支える研究を続けています。

大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター

三隅 将吾 教授

※三隅教授の研究内容については、19 ページでもご紹介しています。

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 歴史を今に「つなぐ」
遺跡の上の熊本大学
- 11 研究室探訪 医薬品の有効成分が患部に届きやすい薬をつくる
大学院生命科学研究部製剤設計学分野
本山 敬一 教授
- 13 特集Ⅱ 熊本大学学生広報スタッフがインタビュー！
くまモン誕生から女性の働き方まで！
宮尾千加子理事に聞きました！
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 熊本大学 × SDGs
- 20 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】大学院教育学研究科 松永 拓己 准教授
夕焼けに赤く染まる熊本城 空中回廊にて

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.82

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3269 Fax.096-342-3110
(総務部総務課広報戦略室)
sos-koho@jimmu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会
茂木 俊伸／委員長 大学院人文社会科学研究部(文学系)
安高 啓明／大学院人文社会科学研究部(文学系)
松永 拓己／大学院教育学研究科
松永詩乃美／大学院人文社会科学研究部(法学系)
原岡 喜重／大学院先端科学研究部(理学系)
黒田 雅利／大学院先端科学研究部(工学系)
坂梨 京子／大学院生命科学研究部(保健学系)
首藤 剛／大学院生命科学研究部(薬学系)
内山 佳世／総務部総務課広報戦略室

【制作】株式会社 談

特集I

歴史を今に

つなぐ

遺跡の上の 熊本大学

熊本大学の黒髪キャンパス、本荘キャンパスなど各キャンパスの地下には、黒髪町遺跡群、本庄遺跡といった縄文時代から近代にかけての遺跡が存在しています。各キャンパスは「周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡の存在が知られている土地）」に含まれており、熊本大学の再開発事業に伴い、多くの発掘調査が行われてきました。これら遺跡の調査を実施しているのが、「熊本大学埋蔵文化財調査センター」です。

熊本大学は、埋蔵文化財だけでなく、建造物、歴史的・文化的資料、研究資源を多く保有しています。近年本学では、「キャンパスミュージアム構想」を掲げ、大学の様々な資源や研究成果を広く一般に公開することで、文化交流や、知的情報を共有する場の創出を目指しています。

埋蔵文化財調査センターによる長年の調査成果も、このキャンパスミュージアム構想に活かされることが期待されています。今回は、これまでに分かったキャンパスの縄文時代から近代までの様子についてご紹介します。

黒髪キャンパスの地下には、東西900m、南北1000mにわたり、縄文時代早期から近代にかけての広大な遺跡が眠っています。出土した縄文時代の土器や石器などの遺物、平安時代の竪穴建物や道路などの遺構から、数千年前の人々の多様な暮らしや、古代律令期の集落や公的機関の様子が、少しずつ解明されています。

近代

120年前ごろ

P.9→

「熊本監獄製造」刻印が
押されたレンガ

古代

1200年前ごろ

P.8→

「國」文字土製印

縄文

4000年前ごろ

P.7→

約2000年前の
弥生時代の甕棺

約4000年前の
縄文土器群

約8000年前の
条痕土器

キャンパス内の遺跡を守り、伝える。

埋蔵文化財調査センターの役割

過去の遺物をつないで復元された、先人の暮らし

キャンパスに眠る遺跡を保護し、建物等の設備更新や災害復旧に伴い遺跡の現地保存が難しい場合には発掘調査を実施して記録を残すのが、埋蔵文化財調査センターの役割です。約30年にわたる多くの調査成果は、キャンパスミュージアム構想にも活かされようとしています。

大学内の埋蔵文化財を記録・保存する役割を担う

「私たちが実施する発掘調査は、遺跡の『記録保存（記録により後世へ残す）』により現代の熊本大学の開発と遺跡の保護を両立することが第一の目的です。そう話すのは熊本大学埋蔵文化財調査センターの新井英永センター長です。

1985年からの移転問題に揺れた熊本大学は、1993年に現地での再開発が決まりました。キャンパスは「周知の埋蔵文化財包蔵地」の範囲内にあるため、文化財保護法の定めにしたがい学内で工事が行われる場合は、事前に発掘調査を行います。工事を円滑に進めるために、大学は1994年4月7日に埋蔵文化財調査室を設置。同年5月16日に正式な業務を開始しました。その後、2011年10月1日に学内共同教育施設として位置づけられたのが、現在の埋蔵文化財調査センターです。



本荘キャンパスにおける遺跡航空写真（2005年）

過去の発掘調査を再評価し歴史をさらに伝える段階へ

一時は年間約70カ所にも及んだ発掘調査も、近年その数は落ち着いてきました。「最新の調査と、過去の調査結果を照合することによって、遺跡の内容が次第に明らかになってきました」と話すのは山野ケン陽次郎助教です。

キャンパスの遺跡を継続的に調査・記録してきた結果、時代ごとの集落構造や人々の生活をリアルに描けるようになりました。「そういった意味で、累積した成果を見直し再評価するという次の段階に入ったのではないだろうか」と大坪志子准教授は語ります。一方で、「工事に伴う調査は、遺跡の現地保存が難しい場合に実施されますが、できるだけそのままの状態で保護して未来に残したい」とも。

黒髪南キャンパスで縄文人骨と墓が見つかった際には、通る予定だった排水管のルートが変更され、墓が現地に残されることになりました。

これまでの膨大な出土品は学内で保管され、一部は黒髪南キャンパスの一番奥にあるセンターの一角に展示されています。訪れた学生は「こんな場所に展示があるのを知らなかった!」と驚き、「また来ます」と言って帰るのだとか。足元に眠っていた歴史が、教育にダイレクトに活かされる場所となっているのです。

調査の成果はキャンパスミュージアム構想の一環として、広く公開することも検討されています。「熊本大学が掲げるキャンパスミュージアム構想には、所有する文化財や学術資源を人材育成や研究のために活用し、大学の歴史や先駆的な研究を広く公開・普及することが含まれ

ています」と新里亮人助教。キャンパス内に保存されてきた歴史的・文化的資料に加え、大学が残してきた研究の成果を、学生や地元へ還元することは、考古学だけでなく、地域の未来を照らすことにもつながります。



展示説明会風景

年表 History

- 1994年 ● 熊本大学埋蔵文化財調査室設置
- 【黒髪北キャンパス】「馬」等の文字が書かれた土器が出土
- 【黒髪南キャンパス】「國」の刻字がある土製印が出土
- 1996年 ● 【本荘キャンパス】「佛」「杵本寺（くほんじ）」と刻まれた土器が出土
- 1997年 ● 【黒髪南キャンパス】弥生時代の甕棺墓群を発見
- 1998年 ● 【黒髪南キャンパス】縄文時代早期の土器出土（キャンパス内最古）
- 2001年 ● 【本荘キャンパス】古墳時代の薩摩の土器、鏡の破片などが出土
- 2002年 ● 【黒髪南キャンパス】推定官道跡（側溝）を発見
- 2002年 ● 【黒髪北キャンパス】古代のおもり「権」が出土
- 2011年 ● 熊本大学埋蔵文化財調査センターに名称変更
- 2014年 ● 【黒髪南キャンパス】縄文人骨と配石墓を発見
- 【本荘キャンパス】江戸時代の井手（石垣）を発見
- 2016年 ● 平成28年熊本地震発生
- 五高記念館の煙突落下、レンガの「熊本監獄製造」刻印を確認
- 2017年 ● 【本荘キャンパス】初期日向往還（道跡）を発見
- 2019年 ● 【黒髪南キャンパス】工学部研究資料館の初期床構造を確認

特集 | 歴史を今に「つなぐ」～遺跡の上の熊本大学

埋蔵文化財調査センター長
大学院人文社会科学部

新井 英永 教授

ARAI Hidenaga



1989年東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了。東北大学、大阪女子大学、大阪府立大学を経て、2017年熊本大学へ。2021年より熊本大学埋蔵文化財調査センター長に就任。

埋蔵文化財調査センター
大坪 志子 准教授

OTSUBO Yukiko



2011年熊本大学大学院社会文化科学研究科文化学専攻博士後期課程修了。1997年より熊本大学埋蔵文化財調査室へ。専門は東アジアの墓制と装身具。

埋蔵文化財調査センター
山野 ケン陽次郎 助教

YAMANO Ken-yojiro



2012年熊本大学大学院社会文化科学研究科文化学専攻博士後期課程修了。独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所アソシエイトフェローを経て、2013年熊本大学埋蔵文化財調査センターへ。専門は琉球列島やオセアニアの貝製品、製作技術。

埋蔵文化財調査センター
新里 亮人 助教

SHINZATO Akito



2007年熊本大学大学院社会文化科学研究科文化学専攻博士後期課程修了。伊仙町教育委員会学芸員を経て、2019年熊本大学埋蔵文化財調査センターへ。専門は歴史考古学、琉球列島の考古学。



土器に刻まれた「杵本寺」の文字

本荘キャンパスでは、古墳時代や古代の集落が発掘され、一般的な家である竪穴建物や溝が見つかりました。さらに、一帯で必ずと言ってよいほど「杵本寺」（すぎもとでら・くほんじ）の文字が刻まれた土器も出土。他に役所の書記の役職名である「主税」の文字が刻まれた珍しい土器や、柱を立て並べた掘立柱建物も確認されています。これらは、一般庶民のものではありませんので、公的機関や有力豪族の氏寺が存在したと考えられます。「杵本寺」は現在の「九品寺」という地名の由来となった可能性があります。一転して、10世紀を過ぎると一帯は水田になっています。新里亮人助教は、「当時の役所が置かれた場所である国府には移転説があるので、これと本荘遺跡の変遷がどのように関係していたのかを今後さらに調べると面白いかもしれません」と話します。



本荘キャンパスで見つかった水田遺構

熊大遺跡 ココがオススメ！

大坪志子 准教授

遺跡の密度が高く、保存状態も良いエリアです。白川近くでは古墳時代の筑後や薩摩の土器が出土し、各地の舟が白川を往来する風景とにぎやかな集落が目に見えそうです。土地利用や人の変遷が分かる、歴史を鮮やかに映し出す場所です。

本荘北キャンパス



メージしづらいですが、丹念な調査の積み重ねと各分野の研究によって、キャンパス内や周辺の土地の変遷、時代ごとの人の営みが鮮明になります。大坪志子准教授は、「今後は調査の総括の段階。もっと多くのことが分かるはず」と声を弾ませます。

古代 当時の暮らしを感じさせる建物・官道の遺構

地名「九品寺」の起り？
竪穴建物や古代の町並み

地道に調査してきたことを
未来へつなぐ

律令制時代、大宰府（現・福岡県太宰府市）から各地へつながる「官道」と呼ばれる公道と、現在のサービスエリアのような「駅」が設置されます。官道は黒髪キャンパスを縦断し、白川を越えて南にのびていきます。古代の「蚕養駅」は、現在の「子飼」の地名が示すようにこの近隣にあったと推定され、黒髪南キャンパスで発見した遺構は、駅に付随する施設ではないかと考えられています。必要最小限の断片的な調査では、当時の様子はイ

掘ってみないと分からない！
想定外の土層で縄文人骨出土

2013～2014年に黒髪南キャンパスで広範囲にわたる発掘調査が行われました。過去の調査成果とあわせることで、周辺の土層の堆積状況が分かり、大きな発見もありました。キャンパス南東隅では地下1.3メートルほどで、硬い灰色の砂層が出てきました。過去の調査では、この砂層の下に人類の痕跡が残っていないと考えられており、調査されませんでした。しかし、白川に近いこの区域では川に向かって地形が下がるのが予想され、「もっと深くに縄文時代の遺跡が残っているのでは？」と考えられました。そこでこの層を掘り下げたところ、地下2メートルほどから、縄文時代の人骨と墓が発見されたのです。この発見は、河岸段丘の低い場所に遺跡が残っていることを示す大きな成果で



縄文人骨の頭部

した」と山野ケン陽次郎助教。後の調査では、地下約3メートルの深さでも縄文時代の文化層が見つかっており、長い期間をかけて洪水などにより多くの土が堆積したことが分かります。遺跡からは土器や石器も大量に見つかり、約4000年～3500年前の縄文人の生活の様子や集落の構造が、浮き彫りになってきました。



縄文人骨と配石墓

熊大遺跡 ココがオススメ！

山野ケン陽次郎 助教

黒髪南キャンパスの土中には、発見された人骨3体のうち1体が今も眠っています。当初ここに通る予定だった排水管は遺構保護のため迂回。4つ並んだ排水管口が、地上でも人骨の存在を実感できる目印です。

縄文人骨の墓



キャンパスでは、縄文時代から近代まで幅広い時代の遺跡が発掘されています。ここでは近年の調査の状況を紹介します。これまでの成果をパズルのようにはめ込んでいくと、当時の人々の息づかいが聞こえてきます。

縄文人骨に古代の官道。 新しい発見が次々と。

発掘調査の成果を見てみよう！

～埋蔵文化財調査センターの成果が見られる場所～

埋蔵文化財調査センターの調査結果は、毎年報告書によって公開されていますが、そのほかにも、発掘された遺物や調査の成果が見られる場所があります。



熊本大学の各キャンパスのどこでどのような遺跡が見つかったのでしょうか。足元からどんなものが出土し、そこからどんな歴史が分かるのかは、キャンパスのあちこちに立てられている遺跡案内板で知ることができます。

キャンパスを歩けば、遺跡散歩が楽しめる！

遺跡案内板

黒髪南キャンパスの白川近くにある埋蔵文化財調査センターには、発掘調査で出土した遺物を見られる展示室があります。展示テーマは定期的に変更されており、縄文時代から近代にかけての人々の暮らしや歴史を体感できます。予定があれば、センターのスタッフの方から説明をもらえることも。キャンパスの下に眠る歴史がより深く理解できます。

出土した本物の遺物が見られる！

埋蔵文化財調査センター展示室

熊本大学構内遺跡から出土した様々な時代の土器たち



埋蔵文化財調査センターの1階にある展示室



五高記念館の落下物の調査風景と文字入りのレンガ

落下した赤レンガから歴史が解き明かされる

2016年4月の熊本地震以降、実施されてきたのが災害復旧工事に伴う調査です。国指定重要文化財である「五高記念館」や「化学実験場」の煙突から落下したレンガの調査もセンター独自に行われました。レンガには「熊本監獄製造」や「イロハニ」といったカタカナの刻印があり、その多くは熊本監獄の囚人が作ったことが判明しました。囚人製造の煉瓦は、当時の新聞にも記載があり、地震によって再確認できた事実です。黒髪キャンパスの北東にある「リデル、ライト両女史記念館」の辺りには、レンガを焼く窯があったと考えられています。

専門家の知識を集結して導かれる近代建築物の工程

2019年、機械実験工場として1908年に建てられた「工学部研究資料館（国指定重要文化財）」の発掘調査が行われました。床は昭和の時代にコンクリートに変わっていますが、その下から建築当初の板床の基礎や機械用の基礎が発見されました。

発見されました。出入口部分で発見された土間には木レンガの痕が残っていました。川原石を円形に敷き詰めて配置した束石基礎や石炭ボイラーの地下煙道、レンガ片の捨て穴なども見つかっています。

「当時の写真や文化財建造物の専門家の意見を参考にしながら発掘調査を進めると、建物の基礎工事、整地作業、レンガ壁の積み上げ、瓦屋根葺き、床板の設置という建設工程が推定できました」と新里亮人助教。焼失などの理由から設計図や写真が残らないケースもあり、近代の建物といえども発掘調査によって初めて明らかになる事実もあります。熊本大学の近代建築物は大学の歴史を語る上でも重要な遺産。どのように記録し、未来へ残すかを頭におきながら調査することが大切です。



工学部研究資料館地下の束石基礎

熊大遺跡 ココがオススメ！

新里亮人 助教

床下の遺構が見事に残っていた様子は生涯忘れることのないくらい鮮明に目に焼き付いています。当時の建築技術の高さと丁寧な仕事ぶりに驚きました。工事が完了し、再度見学できる日を楽しみにしています。

※現在復旧工事中。令和3年12月に竣工予定

工学部研究資料館



近代 熊本地震が光を当てた明治・大正期の建築史

研究室探訪

Laboratory Report

大学院生命科学研究部製剤設計学分野

本山 敬一 教授

MOTOYAMA Keiichi

医薬品の有効成分が 患部に届きやすい薬をつくる



先生から一言！

幅広い知識が 必要な学問

この研究室では、医薬品の製造・加工をベースに、医薬品の有効成分を疾患のある組織に届きやすくするための研究を行っています。製剤学は物理・化学がメインですが、生物学、免疫学など、幅広い知識を必要とする学問です。

シクロデキストリン（オリゴ糖の一種）を医薬品へ応用する研究など、学生の研究テーマは様々です。

自主性を持って研究に取り組む、トライアンドエラーを繰り返すことで、論理的思考力を身につけてもらいたい、そして、なにより実験を好きになってもらいたいと思っています。

大学院生命科学研究部
製剤設計学分野
もつやま けいち
本山 敬一 教授



うちの研究室自慢

■ 研究室の特徴

- ① 1人1テーマ
3年で研究室に所属すると、1人に1つの研究テーマに取り組めます。
- ② 先輩と後輩間、先生と学生間の垣根が低い
違うテーマの学生とディスカッションしたり、先輩や先生に気軽に相談できたり、立場に関係なく、和気あいあいとした雰囲気。本山先生は学生の面倒見がよく、プライベートな相談にのってくださることも。

- ③ 自主性を重んじる
研究は、実験の立案から学生が考えます。また、週に1回行われるゼミでは、学年に関係なく積極的に質問があげられます。

■ 主な就職先

製薬会社（第一三共株式会社、中外製薬株式会社、武田薬品工業株式会社など）の研究員
薬剤師

※ 最近は、製剤技術が必要な化粧品・食品・サプリメントなどの分野からも多くの求人があります。



学生居室の様子



無菌室での実験風景

学生から一言！

研究室に所属している学生に研究の魅力を聴きました！



先生や学生だけでなく、
OBにも相談ができる環境が整っている

大学院薬学教育部
博士課程医療薬学専攻4年
いのうえ まさみち
井上 雅理 さん

タンパク質が集まったものが血管や臓器に沈着して機能障害を起こす、アミロイドーシスという病気に対する新しい医薬品の開発を行っています。また、アルツハイマーもアミロイドーシスの一種だと言われているので、応用としてアルツハイマーの研究も行っています。

この研究室は、OBとのつながりを大切にしていることで有名です。OBの先輩に連絡して、研究のことはもちろん、就職活動の相談のこともうかがえます。私も先輩方に様々な相談に

どんな研究を？



基礎から臨床実験の手前まで、
幅広い研究ができます

薬学部
薬学科6年
なかがわ ふみか
中川 文馨 さん

3・4年のころは、ワクチンや製剤の基剤の開発研究を行っていました。現在は、企業との共同研究でがんの検査キットの開発研究を行っています。薬学科は薬剤師を目指す人が多いですが、私は1年のころから、企業で研究をしたと思っていたので、しっかり研究ができて、企業への就職実績があるこの研究室を選びました。

自分の成果が積み重なっていくのが嬉しいですね。最初は研究の進め方も分かりませんでした。

どんな研究を？

先輩方から「この論文を読むと、どんなデータが必要か分かるよ」などと教えてもらいました。

研究室のよいところは？

たくさんあります（笑）。中でも特に、基礎的な分野から細胞を使った実験、臨床実験の手前の動物実験まで、幅広く実験をさせてもらえることです。また、先輩後輩関係なく、学生同士が仲の良いところもです。違うテーマの人たちとディスカッションすることもあるんですよ。

のってもらえたので、将来は後輩にお返しをしたいと思っています。

将来は？

ベンチャー企業を立ち上げて、患者さん、医師、薬剤師の役に立つ情報を収集して、分かりやすいように加工して発信する学術職の仕事をしたいと思っています。そのためには、まだまだ足りないノウハウなどもあるので、まず、中小規模の製薬メーカーに就職し、様々な経験を積みたいと思っています。



心のしなやかさがあれば辛いときも
それを楽しむ力になります。



学生広報スタッフ
法学部法学科 4年
阿比留 りこ

学生広報スタッフ
文学部コミュニケーション情報学科 3年
松久保 安美

取材場所 | 熊本県立美術館

くまモン誕生から女性の働き方まで！
宮尾千加子理事に聞きました！

熊本大学 学生広報スタッフが インタビュー！

8月1日、熊本大学の広報・ブランディング担当理事として、宮尾千加子熊本県立美術館参与が就任しました。宮尾理事は長年熊本県庁に勤務し、あのくまモンの誕生にも貢献しました。今回は、熊本大学学生広報スタッフが、くまモンの誕生秘話だけでなく、女性の働き方や大学、学生に期待することなど、いろいろな疑問をぶつけてきました！

熊本大学 理事(非常勤)・熊本県立美術館参与
宮尾 千加子 MIYAO Chikako



熊本県荒尾市出身。九州大学法学部卒。1982年熊本県入庁。知事秘書、くまもとブランド推進課長、観光課長、環境政策課長、商工労働局長、環境生活部政策審議監などを経て、2016年熊本県教育委員会教育長に。2019年から熊本県立美術館長を勤め、2021年8月より現職。同月熊本大学理事(非常勤)に就任。

くまモンの成長は
柔軟な発想と継続的な努力

阿比留 宮尾さんは、県の職員時代にくまモンの誕生に携わっていらっしゃいますよね。「くまモンは、おまけでついてきた」と資料で読んだことがあります。そのことについて聞かせてください。

宮尾 県のくまもとブランド推進課長を務めていたときです。九州新幹線鹿児島ルートと全線開業に向けて熊本の認知度を上げるため、天草出身の小山薫堂さんをお願いして「くまもとサプライズ」というロゴを制作しました。そのとき「どうせならキャラクターもいたらいね」と、デザイナーの水野学さんがデザインしてくれたのがくまモンなんです。

阿比留 「おまけ」でついてきたくまモンが、ここまで成長すると想像していましたか？

宮尾 全然していませんでしたよ！成長した理由をよく聞かれるのですが、1つはこういうキャラクターの誕生や思い切った活動を許してくれる環境があったこと。それから、ずっとくまモンを応援してくださる方々がいたこと。もともと、最初は子どもたちに怖がられてしまいましたけど(笑)。3つ目は、くまモン自身のたゆまぬ努力ですね。彼にとって皆さんの応援は何より元気の源になっているんです。

阿比留 くまモンはキャラクターが際立っていますよね。

宮尾 キャラ付けがとても大事なので、最初は悩みました。彼の場合は、いたずらっ子だけど温かみがあるとか、動きがシャープだとか、活動の過程で具体的なキャラクターを確立させました。黒と赤と白というメリハリのある色づかい、子どもたちが描きやすいこともよかつたのかなと思います。

また、集客ターゲットは笑いの聖地大阪だったので、従来の広報PRでは無理だと思っていました。

今でこそ行政によるバラエティに富んだSNS発信は増えてきましたが、10年以上前はほとんどありませんでした。SNSの活用はひとつのチャレンジでしたが、うまく活用できれば費用対効果は大きい。くまモンの「神出鬼没」や「オモシロ名刺の配布」「吉本新喜劇出演」など次々とストーリー性のある展開を重ねたところ、徐々に活動の様子が拡散されていきました。

東日本大震災の後しばらく自粛していた活動を再開すると、「久しぶりに笑いました！」と東北の皆さんがすごく喜んでくださったんです。そのとき、「くまモンには営業部長だけでなく、人に寄り添う、幸せ部長」というもう一つの大切なミッションがあるんだ」とつくづく感じましたね。

刷り込みの価値観にとらわれず、
若い人は前に出てほしい

松久保 宮尾さんは、県の職員として様々な部署で経験を積まれています。持ち続けてきた思いや軸となっているものは何でしょうか？

宮尾 行政に限ったことはありませんが、仕

遠慮せず、
前に出る気持ちを持って
チャレンジしてほしいですね。



事は見えにくい地道な作業の積み重ねです。私は熊本が好きだし、仕事も好き。人間も好きだから、どんな職場でも人と関わっていたいと思ってきました。熊本が褒められると、自分が褒められるよりもうれしい。それがモチベーションにつながっています。仕事はつらいことも多々ありますが、それを楽しめる力を養っておくといいですね。

阿比留 私は来春から社会人になります。男女格差はないと言われていますが、いろいろ思うところがあります。女性がキャリアを築いていくために必要なことはどんなことでしょうか？

宮尾 私たちにとって、1985年に男女雇用機会均等法が成立したことは大きな一歩でした。当時、女性は採用や昇進について差別されることもありましたが、時代の変化に伴って制度は変わってきましたが、最後まで変わりにくい人間のココロです。アタマで分かっている

もココロが追いつかない。

若い人に特に伝えたいのは、遠慮せずに一歩も二歩も前に出てほしいということです。人間の価値観は、生まれたときからの様々な刷り込みでつくられることが多い。悪気はないけれど、例えば「女性は控えめがいい」とかね。だからこれから社会に出る人たちには、これまでの価値観や社会の同調圧力にとらわれず前に出てほしい。必要な制度も遠慮なく活用してほしいです。そして「助けて」と言える地域内でのコミュニケーションや、パートナーとの相互理解も育んでもらいたいと思います。

阿比留 仕事を持ち、将来的には結婚や出産も視野に入れているので、自分がどういうキャリアを築いていきたいか、パートナーや家族と遠慮せず話し合えるようにしたいです。

宮尾 本当にパートナーは大事ですね。

ことはありますか？

宮尾 学生時代、何も考えていなかった私からすれば、今の若者は社会に関心のある人が多くて素晴らしいです。人間同士が信頼関係を築くときも、こうした、他者への眼差しはとても大事。ただ、夢を描きにくい時代のせいも、堅実な生き方を望む人が多いのは少し気になります。

先ほども言いましたが、皆さんの可能性はたくさんあります。夢を持つのは簡単なことではないかもしれませんが、小さな夢の積み重ねがひとつづつ自信になり、やがて大きな夢の実現へとつながることだってあると思います。果敢にチャレンジしてほしいですね。

阿比留 私たちは欲しい情報を検索して手に入れることができて、新しい世界に偶然出会う機会が少なくなっているのかなと思います。

インタビューの様子を学生広報スタッフが動画でも撮影しました！
動画は、学生広報スタッフYouTubeチャンネルに掲載しますので、ぜひご覧ください。



他者への眼差しを大切に。
SNSの強みを活かすこと

阿比留 若い世代に期待することや伝えたい



先の分らない激動の社会で
必要な人間力は、しなやかさ

阿比留 8月から熊本大学の非常勤理事として、大学の広報に携わっていらっしゃいますよね。大学教育で必要なことや社会に求められる人材について伺いたいです。

宮尾 今は5年先も読みにくい激動の時代で、皆さんは大変な社会の中にいます。必要なことの1つは、劇的に変わる社会に適応できる柔軟性ですね。そしてもう一つは、困難や逆境に対する耐力であるレジリエンス。嫌なことを跳ね返す、しなやかさはとても大事じゃないかなと思います。今までのこだわりを捨てて柔軟に対応する、また変わる勇気を持つこと。言うほど簡単ではありませんが、若い皆さんには皆さんの可能性があります。心配しすぎずチャレンジしてほしいです。

阿比留 次に進むには跳ね返す力って大切なんですね。嫌なことがあっても気持ちの切り替えが大事ということでしょうか。ストレスとの上手な付き合い方も必要ですね。

宮尾 まさにそう！その通りです。

松久保 レジリエンスの話にとても納得しました。では大学生活の中で、どうしたらレジリエンスを養えると思いますか？

宮尾 それは、社会生活の中で自然に養われていくものではないでしょうか。人間は生きていく上で必ず誰かと交わりますよね？どんなに行ってくださいね。

阿比留 私たちは大学の広報活動でSNS発信などをしています。活動に不足していることや期待することはありますか？

宮尾 若い人たちは柔軟な発想で発信されまし、学生目線の方が断然共感を持ってもらやすい。遠慮せずにもっとやっていいぐらいですよ！

松久保 大学の広報活動で、発信する側が大事にするべきことは何だと思いますか？

宮尾 客観的な情報をどのように分かりやすく発信するかが第一です。私は知ってもらおう際の手段として、……ねばならないは必要ないと思っています。まさにくまモンがそうであったように、身近に感じてもらおう工夫をすることです。SNSは不特定多数の人が見ているので緊張感がありますが、皆がフラットに交流できるのが強みですから。伝えたい情報に少しでも発信者の思いをのせて付加価値を付けると、親しみやすさが増すと思いますよ。

阿比留・松久保 あまりかしこまらず、学生の柔軟な視点が大事ということですね。忘れないようにします。本日はありがとうございました。

文 周りの方のおかげで、楽しく、大学総務の仕事ができています



熊大のココがイイ！

各々の個性を伸ばす自由な校風。一生の友人と出会うことができる。

歴史や文学に興味があり、文学部を志望

高校では授業の内容を理解するのに必死で、具体的な夢を考える余裕はありませんでした(笑)。興味があったのは、日本、中国、韓国等の東アジアの歴史や文学作品。浅田次郎や司馬遼太郎の作品に夢中になっていました。歴史や文学に興味があったので、文学部に入って勉強したいと考えていました。

自分の興味があることに取り組み、様々な方と交流した大学生活

様々な方と交流できた貴重な4年間でした。研究室やアルバイト、サークル活動、国内外への旅行と、興味のあることに取り組みました。特に留学生や社会人との交流は、自分の価値観を見直すきっかけになったと思います。

1～2年目は学部予算の管理・執行、3年目からは人事に従事

大分大学経済学部総務係に配属され、現在に至ります。主な業務は学部の管理運営(予算・人事・行事)です。1～2年目は予算の管理・執行、3年目からは人事に携わっています。当初は大学の仕組みに慣れず、戸惑うこともありましたが、周りの方のおかげで楽しく仕事ができています。

理 アカデミアとビジネスの溝を埋められる商社マンを目指して



熊大のココがイイ！

充実した研究・教育環境、自由な校風、盛んな国際交流、地域貢献ができる。

高1でバイオテクノロジーを知り、研究者を目指して理学部へ

沖縄の多種多様な植物と触れ合いながら育ち、理科や数学が好きになりました。高校1年の授業でバイオテクノロジーという技術を知り、いつか自分も生物の持つ無限の可能性を引き出したいと思うようになりました。この頃から研究職を意識するようになりました。

1～3年はサークル活動とアルバイト、4年からは研究に没頭

大学1～3年のときはソフトボールサークルと、スポーツジムでのアルバイトに没頭。教授のご厚意で、2年から研究室に出入りさせていただき、本格的に博士課程進学を意識するようになりました。4年以降は研究にのめり込み、幾多の国際学会への参加や、一流の研究者との交流等、とても新鮮で刺激的な大学生活を送ることができました。

フードサイエンスチームで新規食品原料の開拓などに従事

大学院修了後は研究職ではなく、丸紅のフードサイエンスチームで、新規食品原料の開拓・事業戦略推進・企業投資に取り組んでいます。目標は、大学や研究機関、ベンチャー企業に眠る優れた技術をビジネスとして開花させ、アカデミアとビジネスの溝を埋めること。世界中の人の食や健康につながることを信じて、日々取り組んでいます。

医 肺の疾患に対する手術を行う呼吸器外科で、手術の技術を磨く日々



熊大のココがイイ！

悩んだときに相談できる偉大な先生方がたくさんいるところ。

病院が少ない環境で育ったことで、医療の道を目指すように

高校生の頃から医師になることが夢でした。田舎だったので病院も少なく、夜間に体調が悪くなったときに受診できる病院はあまりありませんでした。そのような環境で育ったので、自分が医療を支える側の人間になりたい、医療の道に進みたいと考えるようになったのだと思います。

大学で野球部に入部、先輩後輩と過ごした時間も楽しかった

高校時代は部活動に所属していなかったので、大学入学後に入部した医学部準硬式野球部はとても楽しい部活でした。野球が楽しかったのはもちろんですが、先輩後輩と過ごした時間は一生の思い出です。

いろいろな科で経験を積み、現在は呼吸器外科医に

卒業後は研修医としていろいろな科で学ばせていただきました。現在は呼吸器外科医として病院に勤務しています。あまり聞き慣れない科かもしれませんが、主に肺がんなどの肺の疾患に対する手術を行う科です。手術の技術を磨くべく、日々励んでおります。

法 新型コロナウイルスのワクチン接種の体制構築や推進に携わっています



熊大のココがイイ！

学生同士や教授との距離が近く、卒業後も相談できる関係が築ける。

職場体験がきっかけで法律に携わる仕事に就きたくなった

高校生の職場体験で裁判所に行きました。見学をしたり、弁護士の方のお話を聞いたりして、法律に関して興味を持ちました。それから、法律に携わる仕事をしたいと強く思うようになり、法学部を目指すことにしました。

祖母の在宅介護がきっかけで、社会保障を学べるゼミに

大学2年のときに実家で祖母の在宅介護が始まり、社会保障について学びたいと思うようになりました。3年から社会保障ゼミに入り、判例研究や施設見学に取り組みました。同時に、公務員講座の受講がスタート。試験勉強の合間を縫って、友達とリフレッシュルームでお弁当を食べるのが楽しみでした。

積極的にコミュニケーションを取り、助け合える雰囲気をつくる

現在は、福岡市における新型コロナウイルスワクチンの接種体制の構築や推進に携わっています。担当は予算管理や契約事務、庶務など多岐にわたります。忙しいですが、日ごろから課内の人たちと積極的にコミュニケーションを取り、各ラインの情報共有と、助け合える雰囲気づくりを心掛けています。

薬 がん医療専門の病院薬剤師として副作用の軽減に努めています



熊大のココがイイ！

縦、横のつながりが強い！古い歴史の中にアットホームな雰囲気！

薬学部出身の化学の先生と出会い、薬学部進学を決意

高校生の頃から、大学では化学を勉強したいと漠然と考えていました。2年のとき、薬学部出身の化学の先生に教わりました。先生の話聞くうちに、体内で起こっている化学反応を深く勉強したいと思い、薬学部進学を決めました。当時は研究者になって、がんを治す薬を作りたいと思っていました。

友人と飲み明かしたり、実験三昧だったり、充実していた学生生活

良い仲間、良い先輩後輩、良い先生に恵まれた大学生活でした。初めて親元を離れて不安が大きかったのも束の間、友人と徹夜でゲームしながら(初代プレステの時代でした)飲み明かす日もありました。研究室配属になってからは実験三昧の日々。昼も夜もない生活で大変でしたが、充実した大学・大学院生活を送ることができました。

薬剤師として患者さんに寄り添いながら、後進の教育にも注力

現在は大学病院で病院薬剤師として働いています。がん医療が専門で、がんの薬物治療や緩和医療を中心に関わっています。高校時代の夢はまだ実現できていませんが、今は患者さん一人ひとりに寄り添いながら、副作用の軽減に努めています。気持ちは若いままですが、ベテランになりつつあるので、最近の後進の教育にも力を入れています。

工 システムエンジニアとしてシステム開発や保守サポートに奮闘



熊大のココがイイ！

歴史を感じる赤門と五高記念館。

数学が使われる場面も教えられる数学教師になりたくて、工学部へ

中学生の頃から数学が好きで、数学の教員になることが夢でした。中学時代の担任の授業がとても分かりやすく、「理論だけでなく、どのような場面で数学が使われているのか伝えることができる授業を行ってみたい」と思い、理学部ではなく工学部数理工学科に進学しました。

国際会議や韓国の学生とのものづくりプロジェクトに参加

数理工学科は一学年10人と少人数だったため、同級生はもちろん、先輩後輩、教授方とも距離が近く、勉学、研究においては最適な環境でした。また、1年のときに英語での国際会議、2年のときに韓国の学生とのものづくりプロジェクトに参加するなど、とても充実した大学生活を送ることができました。

システム開発に数学の証明と似たものを感じる

大学院修了後は数学教師ではなく、株式会社RKKCSに入社。システムエンジニアとして自治体向けのシステム開発や保守サポートに携わっています。特にシステム開発では、顧客からの要望(ゴール)と、実現に向けての開発(プロセス)に数学の証明と似たものを感じ、日々奮闘しながら業務に取り組んでいます。



本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教 大学卒業後も仲間たちと学び合い、子どもたちの健康教育に還元



熊大のココがイイ！

卒業後も共に励まし合い、学び続ける先輩・後輩・仲間たちがいること！

養護教諭を目指し、ひたすら努力を続けた高校生活

医療系の資格のある職業に就きたいと、小学生の頃から漠然と考えていました。小学6年のときの担任・クラスメイトとの出会いで学校の先生への憧れが強くなる中、とある漫画に感銘を受け養護教諭になることを決意。高校時代はこの夢を叶えるため熊本大学への進学を目指し、ただひたすら努力努力の日々でした。

勉強、幹事会活動、アルバイト、全てが今につながっている

初めて専門科目の教科書を手にしたときの感動は忘れられません。幹事会活動(スポーツ大会の企画・運営)とアルバイトにも励みました。各種実習で仲間と切磋琢磨したこと、息を切らしながら西の端の幹事会室と東教室を往復したこと、多くの人と関わることで視野が広がったこと、笑顔を力に頑張った全てが今の自分につながっています。

養護教諭の仲間たちとの学び合いが大きな力になっている

熊本地震、新型コロナと、この5年間は思いもよらないことの連続で、その対応に翻弄されている状況が続いています。心身に様々な影響を受けている子どもたちの笑顔が消さないように、養護教諭の役割を果たすことに試行錯誤している仲間と、月に一回東教室で学び合っています。このことが大きな力となり、子どもたちの健康教育に還元できていることを感じています。

株式会社肥後銀行と包括的連携協定を締結しました

令和3年6月30日に、株式会社肥後銀行と包括的連携協定を締結しました。

本協定は、本学が有する研究成果や技術シーズと、肥後銀行が持つネットワーク及び金融面・地方創生に関するノウハウの「共創」により、地域の持続的発展に貢献し、SDGsの達成に寄与することを目的としています。

今後、地域企業と本学研究者の共同研究支援や、本学が受け入れる寄附金拡大について連携協力していきます。具体的には、新たな基金「肥後未来共創基金」を設立し、協働事業における受け皿としての活用や肥後銀行の遺言信託における本学への遺贈の取扱開始、さらにクラウドファンディングを活用した学生ボランティアの応援等を予定しています。



協定書を掲げる笠原慶久 肥後銀行代表取締役頭取(中央左)、小川久雄 学長(中央右)

熊本県立大学と包括的連携協定を締結しました

令和3年7月1日に、熊本県立大学と包括的連携協定を締結しました。

本協定は、熊本県内唯一の国立大学と公立大学同士で多方面に、SDGsの理念のもとでさらなる連携・協力を行い、教育研究資源の相互活用を進め、熊本の発展及び地域を支える人材の育成に寄与することを目的としています。

両大学はこれまで、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の実施をはじめ、学部間による単位互換や研究者間の交流を行うなど、教育・研究両面での交流実績を積み重ねてきたところです。

急激な社会環境の変化の中で大学が力を発揮し、新しい時代の創造に貢献していくために、このパートナーシップをさらに強固なものとし、教育研究活動全般において両大学の強み・特色を活かした大学間連携に取り組みます。



左から、甲斐広文 副学長、小川久雄 学長、半藤英明 熊本県立大学学長、同 堤裕昭 副学長

東海大学総合農学研究所と連携協定を締結しました

令和3年7月12日に、熊本大学大学院先端科学研究部附属生物環境農学国際研究センター及び同大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センターが、東海大学総合農学研究所と連携協定を締結しました。

本協定は、農学研究を相互に連携・協力して実施することにより、その成果をそれぞれの研究及び教育に活かすとともに、国際的な学術交流の活性化に寄与することを目的とするものです。

今後は、3者の強みを活かして、共同研究や研究者の交流を積極的に行い、農学分野のさらなる発展と地方農業の課題解決への貢献が期待されます。



前列左から、澤進一郎 大学院先端科学研究部附属生物環境農学国際研究センター長、三隅将吾 大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター長、今川和彦 東海大学総合農学研究所長

地方創生人材育成の連携に関する協定及び覚書を締結しました

令和3年8月3日に玉名市、天草市、八代市、和歌山県田辺市、(公財)阿蘇地域振興デザインセンター※及び株式会社日本政策金融公庫(八代支店・田辺支店)と地方創生人材育成の連携に関する協定及び覚書を締結しました。

本協定等は、各地域の地場企業の若手経営者や後継者らを対象に、ビジネスを通じた地域課題の解決方法を学ぶ人材育成塾を開講し、人口減少などの解決につなげることを目的としています。また、大学と地域が信頼を深め、産学官金の組織連携のもと、地方創生を推進します。

5つの地域のうち、玉名市、天草市及び阿蘇地域は、令和3年度内に同塾の開講を予定しています。なお、八代市及び田辺市はすでに開講しているため、ノウハウの共有を強化するとともに、地域密着型金融機関である株式会社日本政策金融公庫とも連携することで、より多くの地方発イノベーション事例の創出が可能となり、他地域への横展開も目指します。



小川久雄 学長(前列中央左)と調印式出席者

※(公財)阿蘇地域振興デザインセンターとは、今後、覚書を締結予定



©2010熊本県くまモン

熊本大学 SDGs 宣言を公表！

熊本県 SDGs 登録制度の登録事業者として登録されました

熊本大学は、SDGsの実現に向けて、組織としての共通認識のもとで取組を推進していくために、令和3年8月25日、学長宣言である「熊本大学SDGs宣言」を公表しました。

本宣言は、「開かれた大学」として、地域・社会・世界などの様々なパートナーとFace-to-Faceに向き合うことで、価値観を共有し、課題解決に向けた新たな価値を創造することによって、SDGsの実現につなげることを掲げたものです。

また、宣言の公表に併せて、SDGs実現に関連する本学の取組の代表事例をウェブサイトに公開しました。教育・研究・社会貢献の全面で熊本のSDGs推進に寄与するため、今後もSDGsに関連する取組やお知らせを以下のウェブサイトに掲載

しますので、ぜひご覧ください。

さらに、熊本大学は、同日令和3年8月25日付けで、熊本県が創設した「熊本県SDGs登録制度」の登録事業者として登録されました。

「熊本県SDGs登録制度」は、熊本県内の企業や団体等が、自らの活動とSDGsとの関連性を認識し、SDGsの達成に向けた具体的な取組を推進することにより、SDGsの普及を促進することを目的として、新たに創設されました。

熊本大学は、「熊本大学SDGs宣言」のもと、地域や登録事業者等と共創し、SDGs達成に貢献してまいります。

※「熊本大学SDGs宣言」及び本学のSDGs達成に向けた取組等は、以下の本学ウェブサイトからご覧いただけます。

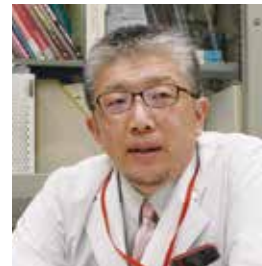


<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/katudou/SDGs/>



小川 久雄 学長

有用植物を有効活用し、子どもたちが5歳以上生きられる世界へ



大学院生命科学研究部附属
グローバル天然物科学研究センター

三隅 将吾 教授

MISUMI Shogo

私が携わっている「有用植物 × 創薬システムインテグレーション拠点推進事業 (UpRod)」が行っているのは、熊本大学が持っている「有用植物ライブラリー」を基に、その成分を分析して医薬品の創出につなげ、栽培システムを構築しよう、というプロジェクトです。

現在、世界人口の8割は植物などの天然資源を由来とした伝承医療に頼っています。これらの天然資源は、実際に効果があることは分かっていますが、なぜ効くのか分からず、その後の創薬にはつながっていませんでした。そこで、資源の成分を分析する評価システムを構築することで、新しい薬をつくっていかようとしています。

われわれの取り組みには「子どもたちに5歳以上生きてほしい」という気持ちが込められています。世界には、病気や貧困などの理由で



5歳まで子どもが生きられない国がたくさんあります。有用な成分を持つ植物が数多く見つかり、その植物をたくさん栽培できるようになれば、雇用が生まれ、国の体制を整えていくこともできるようになるでしょう。そうなれば、「貧困をなくし、すべての人に健康と福祉を」というSDGsの実現に近づけると思っています。

※P2「未来へつなぐ。一熊本大学とSDGs一」でもご紹介しています

SDGsとは？

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。2015年の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No55（令和3年5月1日～令和3年7月31日）

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約15億6,863万円（令和3年7月31日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する学修支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和3年5月1日から令和3年7月31日までの間に入金を確認させていただきました個人122名、12法人・団体の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局（電話：096-342-2029）までご連絡ください。皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。） ※（ ）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

<熊本大学基金>

【100万円】	黒木 政秀（300）						
【30万円】	田上 正昭（41）						
【20万円】	吉村 春雄（20）						
【10万円】	井上 俊輔（10）						
【5万円以下】	阿部 浩二（1）	猪俣 紘一郎（21）	甲斐 豊（3）	川原 文次（1）	桑原 哲郎（2）	近藤 光弘（3）	坂本 恵治（3）
	深瀬 俊一（0.5）	藤好 建史（7）	本多 邦雄（23）	宮本 真次（2.4）	吉永 健（17）		

2. お名前のみ掲載

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。） ※[] 内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

<熊本大学基金>

秋月 真琴	猪股 裕紀洋 [4]	梅田 圭一郎	江口 慎一郎	大井 浩史 [3]	大津 敬一朗 [7]	岡本 哲夫	表田 透 [2]
金光 敬一郎	上城 洋一 [5]	木村 忠司 [2]	清田 信照 [3]	日下 裕章	小坂 和夫	児玉 英昭	眞田 功
高岡 恭治 [2]	高潮 征爾	高橋 隆雄 [2]	辻田 賢一	堤 泰寛 [2]	鶴田 一真 [3]	富澤 一仁 [6]	中村 浩一 [3]
永芳 実	野元 剛二	橋口 治 [11]	橋本 司	馬場 秀夫 [16]	早野 恵子 [5]	東 敏信	福田 俊幸 [6]
福井 寿啓 [4]	前田 奈穂子	松岡 重孝 [2]	松口 武行	松田 千代子 [3]	松村 健史 [3]	松本 和久	松本 義幸 [3]
松山 公士 [8]	丸吉 秀朋	宮本 保 [17]	山下 卓郎				
医療法人社団松下会あけぼのクリニック	榎本内科医院	上天草市立上天草総合病院					熊本大学医学部医学科後援会 [20]
熊本大学循環器内科	社会福祉法人恩賜財団済生会みすみ病院	青磁野リハビリテーション病院					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人60名、5法人・団体

先進軽金属材料国際研究機構(ILM)開所式を開催します

マグネシウム・アルミニウム・チタンという3大軽金属を総合的に取り扱う国際研究教育拠点として、令和3年4月に設置された先進軽金属材料国際研究機構の開所式を開催します。詳細は、先進マグネシウム国際研究センター(MRC)のウェブサイトにて随時発信します。

- 【開催日時】令和3年12月9日(木)
- 【場所】ザ・ニューホテル熊本
(熊本市西区春日1-13-1)
- 【参加対象者】どなたでも参加できます。
- 【申込方法】以下のウェブサイトにてお知らせします。
- 【問い合わせ先】先進マグネシウム国際研究センター事務局
E-mail: mrc@kumamoto-u.ac.jp
- 【URL】http://www.mrc.kumamoto-u.ac.jp/



IROASTシンポジウム～ウェルビーイング社会の構築を目指す理工系最先端研究～を開催します

「人に寄り添う技術の実現」をテーマに、最先端の基礎研究を分かりやすく紹介し、応用技術に幅広く活かしてもらうことを目的として開催します。なお、シンポジウム特別ウェブページを11月1日から11月30日まで開設予定です。期間中は、随時質問も受け付けます。終了後は講演動画を配信します。

- 【開催日時・場所】令和3年11月22日(月) 13:30～15:30
Zoomウェビナーによるオンラインシンポジウム
- 【参加対象者】どなたでも参加できます。
- 【申込方法】以下のウェブサイトにてお知らせします。
- 【参加費】無料
- 【問い合わせ先】自然科学系事務課
国際先端科学技術研究機構(IROAST) 担当 佐藤
TEL: 096-342-3362
E-mail: szk-kiko@jimu.kumamoto-u.ac.jp
- 【URL】http://iroast.kumamoto-u.ac.jp/



REPORT

「肝がんゼロを目指して」啓発イベント、市民公開講座を開催しました

熊本大学病院肝疾患センターは、7月28日の世界(日本)肝炎デーに合わせて、肝がん撲滅運動「肝がんゼロを目指して」を行いました。

7月18日にイオンモール熊本で「あなたの肝臓、大丈夫?」と題した啓発イベントを開催し、肝疾患に関するパネル展示や体組成測定、血管年齢測定などを行いました。くまモン隊の参加もあり、700名以上の方に啓発を行うことができました。

また、8月1日は県下7会場で市民公開講座を開催し、117名の参加をいただきました。参加者からは分かりやすく勉強になったとの声を多くいただきました。同センターは今後も肝疾患に関する普及啓発に取り組んでいきます。



肝臓の硬さを簡単にチェックできる計算サイト。→
皆さんもチェックしてみませんか?



REPORT

日本女性初の医学博士「宇良田唯」の胸像除幕式を挙行了しました

8月6日に薬学部において、日本人女性初の医学博士「宇良田唯」の胸像除幕式を挙行了しました。

宇良田博士は、熊本県天草市牛深町の出身で、薬学部の前身である熊本薬学校を卒業後、医師となりました。その後、北里柴三郎の門下生となり、ドイツのマールブルグ大学にて日本女性初の医学博士の学位を取得しました。

日本に戻った後も、牛深や東京、さらには中国の天津に赴き、専門である眼科の他、内科や産科など多領域の女医として献身的に活躍しました。

そのひたむきな向学心と功績を讃えて、また、後学の徒の光とならんことを期して、薬学部同窓会と親族である宇良田心氏の寄附により建立されました。



除幕を行う小川久雄 学長(左から3番目)

REPORT

第15回九州シンクロトロン光研究センター研究成果報告会を開催しました

熊本大学と九州シンクロトロン光研究センター(SAGA-LS)との共催で、第15回九州シンクロトロン光研究センター研究成果報告会を開催しました。

8月23日に熊本大学工学部百周年記念館において、オンライン形式の講演会を行い、8月23日から25日にかけて、デジタルポスターセッションを行いました。

本成果報告会は、SAGA-LSに関わるこれまでの研究成果を広く広報し、今後の基礎科学の発展を担う優秀な人材を育成するとともに、SAGA-LSを含む放射光施設を利用した様々な研究教育活動を活性化する目的で開催されました。講演会には83名の参加が、ポスターセッションには16件の発表がありました。



SAGA-LSの実験ホール

INFO

第36回熊本大学附属図書館貴重資料展「廃藩置県と熊本藩―転換期の政治・社会・教育―」を開催します

今秋の貴重資料展では、廃藩置県という巨大な転換期の状況を示す資料を、3日間限定で展示します。初日は講演会を開催します。また、附属図書館特設サイトにて「オンライン貴重資料展」も同時開催します。

- <貴重資料展>
- 【日時】令和3年10月30日(土)～11月1日(月) 10:00～17:00
- 【場所】熊本大学附属図書館(中央館)1階 ラーニングcommons

- <公開講演会/第15回永青文庫セミナー>
- 【日時】令和3年10月30日(土) 14:00～15:30
- 【場所】熊本大学附属図書館(中央館)1階 ラーニングcommons
- 【講演】①演題「熊本城廃棄申請書の成立事情と「御城拝見」」
講師 三澤純 大学院人文社会科学研究部(文学系)准教授
- ②演題「廃藩置県後の旧藩主細川家と旧藩士」
講師 今村直樹 熊本大学永青文庫研究センター 准教授
- *附属図書館ウェブサイト・特設サイト上で動画を掲載予定

- 【参加対象者】どなたでも参加できます。
- 【申込方法】参加申込は不要です。
- 【参加費】無料
- 【問い合わせ先】熊本大学附属図書館
TEL: 096-342-2212
- 【URL】https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/events/onlinekichoshiryo/r3
(令和3年10月27日(水) 9:00公開予定)



*新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、ウェブサイト上へ「オンライン貴重資料展」及び「公開講演会/第15回永青文庫セミナー動画掲載」のみ実施します。